



健診センターニュース



胸部CT検査のご紹介

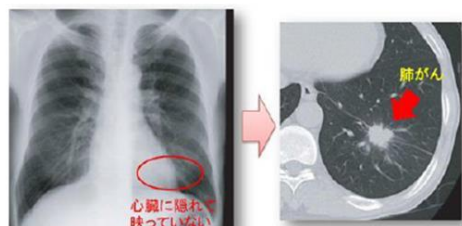
人間ドックのオプションで、昨年11月から胸部CT検査を受けていただけるようになりました。今回、新たに加わった胸部CT検査について診療放射線技師がご紹介いたします。

2021年にがんで死亡された人は381,505人（男性222,467人、女性159,038人）でした。部位別の死亡数は男性では肺がんが最も多く、次いで大腸がん、胃がん、膵臓がん、肝臓がんの順で、女性では大腸がんが最も多く、次いで肺がん、膵臓がん、乳がん、胃がんの順となっています。（国立がん研究センター調べ）

肺がんは進行しないと自覚症状が現れにくいですが、他の主ながんと比べて進行が速く、転移しやすいと言われています。定期的に検査を受けて早期に発見することが大切です。

胸部CT検査では、肺・気管・気管支の病変（肺がん・肺炎・肺結核・肺気腫など）以外にも、心不全や胸水貯留なども発見できます。検査は、CT装置のベッドに仰向けになり両腕を拳上した状態で撮影し、胸部の断面を1mm間隔の画像で診断します。準備～撮影終了までは10分程度で痛みもありません。胸部レントゲンでは見つけれない小さな病変も見つけることができます。写真のように、心臓や肋骨と重なっていたりすると発見しにくい場合がありますが、輪切りの画像によって、周りの臓器に影響されず詳細に胸部の状態を知ることができます。被ばく線量は体格によりますがおよそ0.5mSv（ミリシーベルト）です。通常の胸部CT検査と比べると、健診で行う胸部CTは6分の1程度の低線量で撮影しています。胸部CT検査は、「20年以上喫煙している」「男性40歳以上・女性45歳以上」「家系にがん歴のある方」「同居者にスモーカー（同じ空間でタバコを吸っている）がいる」「結核と言われたことがある」「粉塵曝露歴がある方（石綿（アスベスト）など）」にオススメです。妊娠されている方や、植込み型除細動器を装着されている方は検査することができません。

肺がん治療は大きく進歩しており、早期発見できれば、根治をめざすこともできます。ぜひ一度、胸部CT検査を受けてみてはいかがでしょうか。



湿度と結露について

日本では夏季に湿度が高く、冬季に湿度が下がるため、夏はジメジメと暑く、冬は乾燥して寒く感じます。1日の生活の中でも湿度は大きく変化します。寒い日にエアコンの暖房を入れると湿度は下がりますが、洗濯物を部屋干しすると湿度は上がります。窓を開けて換気をする、外の乾燥した空気が入り込んで湿度は下がりますし、お鍋などの調理をすると湯気が部屋中に充満して湿度は上がります。湿度が40%以下になると目や肌、のどの乾燥を感じるようになりウイルスが活発になる危険ゾーンになります。60%以上では湿度が上がるほどカビやダニが発生しやすい危険ゾーンになります。快適な湿度は40～60%とされています。

1年中最も結露しやすい時期は、暖房機器や加湿器を使う冬場です。結露を放置しておくと、家の傷みや

病気を引き起こすカビが発生する原因となります。そんな厄介な結露を防ぐには、湿度計を置いて気温に合わせた湿度調整を行いましょ。外気温と室温の寒暖差が大きい場合、換気などで湿度を上げすぎず、加湿も限度を超えないようましょ。

結露対策として、食器用洗剤を薄めて窓を拭く、新聞紙を窓のレールに挟んでおく、換気扇を回しておく、扇風機やサーキュレーターで空気を循環させる、二重窓（内窓）の設置、エアキャップや結露防止シート、結露吸水テープを貼るなどがありますので試してみてください。



健診センターからのお知らせ

—新型コロナウイルス感染症対策について—

平熱を知るため1週間程度検温してご来院ください。発熱、感冒症状、息苦しさ、強いだるさ、下痢などの症状がある又は続いている場合や2週間以内に感染流行地に行かれた方は、受診できない場合があります。来院できない場合は健診センターまでご連絡ください。感染予防のため、マスク着用、手洗い、換気等にご協力ください。

健診のご予約・お問い合わせは
下記までお気軽にお電話ください。

624-0906
舞鶴市宇倉谷427 健診センター
TEL (0773) 75-1920
FAX (0773) 75-7380
月～金 8:30～17:00
(土・日・祝日・年末年始12/29～1/3・創立記念日6/1休)

